

先週の礼拝メッセージ(2021年8月1日) ベン牧師

「救われたのは恵み」 エフェソの信徒への手紙 2:8、9

クリスチャンであれば、救われたのは恵み以外のなにものでもないことは知っていますね。良い行いや知識、健康状態、財産など、そういうものは一切救いには関係なく、ただ信じるということのみが必要なのです。

信じるということは、誰にでもできることであり、同時に、信じようと思わなければ誰にもできないことです。神様は時代を超えて、環境を超えて、すべての人が救われることを願われ、たった一つ「信じる」こと以外、救いに必要なことはすべて、イエス様が十字架の上で成し遂げてくださったのです。

私たちの罪は、すでに十字架の上で流してくださったイエス様の血によって赦されています。ですから、今私たちがクリスチャンでいるということ自体が、とても大きな恵みなのです。

今日礼拝に来ているということ自体も恵みです。体調も、天候も、環境も、すべて主が整えてくださったからこそ、私は今この場所にいられるのです。

パウロがこの手紙を書いた時代には、律法主義というものがああり、聖書の律法を完全に守らなければ救われれないというものでした。しかし、律法を完全に守れる人間はいません。歴史を通して律法を完璧に守ることができたのは、イエスキリストただお一人だけです。イエス様は、律法から見ても文字通り「義人」なのです。そのイエス様を信じる私たちも、イエス様と同じ「義」とされると聖書は語っています。「こんな私が？」と思われるかもしれません。



私たちには、欠けも足らなさも山ほどあります。でも、そんな私たちを「信じる」ということで受け入れ、罪を赦し、義としてくださるのが神の恵みなのです。

信仰という言葉は、ギリシャ語では「信頼」と同じ言葉です。信仰と信頼は、聖書では同じ言葉として用いて

います。神様を信じているのに、神の言葉を信頼しないということは、大きな矛盾なのです。



私たちは、神を信頼して救われました。そして、それは自分の力ではなく、神の恵みです。さらに、それは「誰も誇ることがないためである」(9節)と記されています。

学歴、財産、体力、さらには、聖書をどれだけ読んだとか、信仰歴がどんなに長いとか、どれだけの奉仕をしているとか、そんなものは、私たちの誇りではありません。

私たちにとって、誇りとするものはイエス様だけです。「誇る者は主を誇れ」(1コリント 1:31)とあるとおりです。

今日のキッズタイムでもあったように、宝のあるところに心もある、その通りです。あなたの宝はどこにあるでしょうか。この世のものが心を占めていたら、神様のことがわからなくなります。自分を誇りたくなります。

救いが神の恵みであるという原点に戻りましょう。神様は、信じるという、誰にでもできることを提示して下さって、私たちを招き、救って下さいました。

さらに、今まで何回も語られたように、死んでいた者を生かし、主と共によみがえらせ、天の王座に着かせてくださったのです。こんな素晴らしい恵みをいただいているのですから、私たちはその恵みをくださった主を喜び、そして主に喜ばれる教会を目指そうではありませんか。

そして、私たち一人一人が、神に喜ばれるクリスチャンとなろうではありませんか。そのためには、まず、私たちが神を喜ぶことです。

どんな時も、救われたのはただ恵みによる、イエス様以外に誇るものなし。

この原点に立ち続け、神を喜ぶクリスチャン、教会として成長させていただきましよう。